

とらいあんぐる



定期総会の様子



鈴木設計課長挨拶



会長挨拶

第1回定期総会の開催

日時：平成22年3月4日(木)午後3時
場所：徳島県土地改良会館

出席会員：19名

最初に会長から、「とくしま水土里ネット次世代ネットワークは初めての取り組みで、昨年7月の設立から今日まで、中国四国農政局や徳島県のご支援をいただきながら、半年余りではありますがH21年度事業が計画どおり推進でき、今年度も益々本ネットワークが設立の主旨にそって活動していきます。」と挨拶がありました。

来賓として中国四国農政局鈴木設計課長、徳島県農山村政策局藤原局長、日置次長にご多忙の中ご臨席の上、ご祝辞をいただきました。

会報のタイトルが決まりました。

本会報のタイトルを募集したところ約30件の提案をいただきありがとうございました。役員会による1次選考を経た数案を第1回定期総会の出席者会員で投票を行った結果、「とらいあんぐる」に決定しました。応募者によると「とらいあんぐる」は、「本次世代ネットワーク会員の構成である、役員、総代(組合員)、職員の3者の協力を意味しています。」今後、この会報の愛称としていきますのでよろしくお祈いします。





視察研修会報告

研修概要

日程:平成22年1月28日(木)~29日(金)1泊2日
参加者:寺井会長他 会員11名、徳島県2名、徳島県土連1名 計14名

研修目的:次世代ネットワークの活動の主目的の1つである研修活動として土地改良事業の実施を基盤とし、新しい営農形態や地域の活性化の推進のため「21世紀創造運動」、「農地・水・環境保全向上対策」、「集落営農」等をキーワードとし、それらに先進的に取り組んでいる県外土地改良区の視察を行う。また、本視察研修により設立したばかりの本ネットワークにおいてこれから必要不可欠となる会員間の意思疎通、連帯感を向上する。

山田土地改良区

兵庫県淡路市 面積35ha 組合員90人

●研修要旨

- ・「変えよう山田、変わろうみんな」をスローガンにほ場整備事業により1集落1農場を目指して中山間直接支払い等も有効活用し営農組合を発足(法人化を予定)した。
- ・「山田営農組合」では共同で農作業用機械や育苗センター、ライスセンターも整備
- ・都市住民との交流としての農業体験、ほ場整備事業の中で希少動植物の保護を行い学校町内会と生き物調査を実施、定期イベントとして根付きつつある。



笹野土地改良区

兵庫県たつの市 面積65ha 組合員224人

●研修要旨

- ・ほ場整備事業、自然再生高度化事業、営農組合の設立の3本柱である。
- ・「ささ営農」は県内初の株式会社化
- ・ほ場整備の推進が農地を守ることであるとの信念でここまで来た
- ・親水公園を地域で手作り。清掃等も地域で担当。博物館の先生のアドバイスを定期的にいただいている。
- ・「ささ水辺の生きものを守る会」では子供たちと一緒に、ピオトープを作ったり田んぼにメダカをよみがえらせたりするなど地域の連携を深める活動を実施している。



吹土土地改良区

兵庫県篠山市 面積150ha 組合員250人

●研修要旨

・丹波黒豆、山の芋といった全国区の特産品あり
・百世永頼(ひゃくしょうエライ!!)をスローガンに21世紀創造運動(ふるさと村保全活動)に取り組んでいる。

基本理念は“共生”

・ほ場整備の先進地で現在も耕作放棄地はなし。
・ふるさと村保全活動も県下先進地。都市部からボランティア会員を募り営農をしてもらっている。



研修参加者からの感想



視察先の3つの土地改良区とも抱えている問題は、やはり後継者不足による農業従事者の高齢化でした。結果、問題の解決方法として集落営農法人化に行き着き、その仕組みを維持していくためには、今後更なる工夫が必要となってくると思われます。

幸い自分の土地改良区では、農家の後継者も増えて来ていることから、あまり考えませんでした。が、農業従事者の高齢化という当たり前の問題について今回の視察研修を通じ、生の声として聞き、再確認できた事は大変意味のあることでした。

●山田土地改良区

ほ場整備を実施し、集落営農をが行われていました。稲作についてはコストを改善することができ、米を高く売ること注力しているようだが、果樹などもっとほ場に適した生産物も検討してほしいと思います。

●笹野土地改良区

この地区もほ場整備を実施しており、集落営農が行われていますが、土地改良区による環境保全のための調査、ほ場を有効利用するための組織の設立・運用を並行してバランス良く運営できていることに感心しました。

●吹土土地改良区

土地改良区の歴史があるということで、先人達の構築した農地を守っていくという気持ち、責任感を強く感じ、21世紀土地改良区創造運動を通じて、地域組織と連携や、都市との交流を深めた活動を行っており、耕作放棄地が無いなど、素晴らしい成果があります。しかし後継者は育ってなく、定年退職された方が移住して後継者となることを期待していました。

また、用水路やパイプラインなどには寿命があり、長く使うには補修が必要で、これは土地改良区と農家が車の車輪のような関係であると思いました。

この次世代ネットワークの会員は大きく分けて農家と土地改良区の職員で成り立っていて、会員間でいろいろな意見を交わすことができ、これからも一緒に考える場としていきたいと思っています。



参加者集合写真

講師:中国四国農政局整備部設計課課長 鈴木浩之 様

講演内容:一新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定一

22年3月策定の「食料・農業・農村基本計画」のポイント目指すべき施策として、戸別所得補償制度の導入や、食料自給率の引き上げ、農業・農村の6次産業化などについて、又、農業・農村の役割についてなど、パワーポイントを用いてのご講演をいただきました。

講演に引き続いて、鈴木設計課長と会員の意見交換会を行い、農業や土地改良区の実情、また、農業施策に付いての要望等意見を交わし、大変有意義な意見交換会になりました。



●鈴木設計課長の講演



●意見交換会

～平成22年度の活動について～

2年目となる平成22年度は、昨年度の活動に引き続き“土地改良区の次世代体制強化に向けた調査・研究”、“国県等の関係機関や土地改良区の諸先輩方との意見交換”および“会報を通じた会員への情報提供”等について会員相互の協力により、計画的・発展的に活動していきます。

1.土地改良事業に関する研究会

土地改良事業の性格、仕組み、目的を理解し、自身の土地改良区の運営に主要な地位を占めるための基礎を学習します。

2.国・県関係機関並びに土地改良区理事長等との意見交換会

次世代ネットワーク会員の今後の活動の参考とするため、土地改良区運営上の問題、苦勞等について意見交換を行います。

3.会報の発行

会報では、会員土地改良区の紹介や、行政のイベント情報の提供などを掲載します。

4.会員の拡大

県内土地改良区の役職員・組合員が情報収集・研修会等に積極的に取り組めるよう、会員の拡大を行っていきますので、**入会をお待ちしています。**

5.次世代ネットワークのPR

土地改良区の役割、次世代ネットワークの活動状況を各種イベントでパネル展示するなどし、とくしま水里ネット次世代ネットワークをPRします。

メールアドレスの開設

事務局では、メールアドレスを徳島県土地改良事業団体連合会内に開設しました。
皆様の意見や、要望、情報などを送って下さい。

Mail-address jisedainet@tokudoren.or.jp



発行



とくしま水里ネット

とくしま水里ネット次世代ネットワーク 事務局

徳島市伊月町1丁目32番地 徳島県土地改良事業団体連合会内

電話：088-626-3211 FAX：088-655-3399